

「保育の計画」作成の手引き 様式一覧

★ 様式変更あり

章	番号	様式名称	用紙サイズ	
			A3	A4
第1章	①	全体的な計画	○	
	②	★ 年間指導計画(0歳児)	○	
	③	年間指導計画(1歳以上児)	○	
	④	月間・週日指導計画(3歳以上児・異年齢児)	○	
	⑤	保育経過記録・月間指導計画(0・1・2歳児)		○
	⑥	保育経過記録・月間指導計画(2歳児クラス・満3歳児)		○
	⑦	保育経過記録(3歳児～5歳児)	○	
	⑧	保育経過記録サブノート		○
	⑨	育ちの支援ノート		○
	⑩	個別の指導計画		○
	⑪	保育日課表		○
	⑫	行事計画と反省		○
第2章		★ 保育所児童保育要録		○
第3章	①	年間保健計画		○
	②	年間食育計画		○
	③	食育実施計画書・評価		○
	④	プール日誌		○
	⑤	防火管理自主点検表		○
	⑥	交通安全年間指導計画		○
	⑦	体力作り年間計画		○
	⑧	不審者対応防犯訓練年間指導計画		○
	⑨	不審者対応防犯訓練実施記録簿		○
	⑩	不審者対応役割分担表		○
	⑪	不審者対応防犯訓練用チェックリスト		○
	⑫	不審者対策チェック表		○
	⑬	避難訓練年間指導計画		○
	⑭	避難訓練実施記録簿		○
	⑮	園児引き渡しカード		○
第4章	①	援助計画		○
	②	援助記録		○
	③	配慮の必要な家庭のポイント		○
	④	★ 虐待相談・通告受付票		○
第5章	①	自己啓発活動表(SDS)		○
	②	研修報告(実践ノート)		○

※すべての様式の元号を削除

年度

全体的な計画

施設名

保育理念												
保育方針						保育目標						
保育所の社会的責任	人権尊重			地域交流と説明責任			個人情報の保護と苦情解決					
発達過程とクラスの相関性				地域の実態に対応した事業			保育時間	平日 土曜日	時 分 ~ 時 分	時 分 ~ 時 分		
							主な園行事					
子どもの保育目標	6か月未満	6か月~1歳未満	1歳~1歳6か月未満	1歳6か月~2歳未満	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児				
養護教育	生命の保持											
	情緒の安定											
	健康											
	人間関係											
	環境											
	言葉											
	表現											
食育	食を嗜む力の基礎											
健康支援及び安全												
保護者に対する支援												
職員の資質向上への取り組み												
研修計画												
小学校との連携												

◆全体的な計画（保育課程） 記入のポイント

年度 全体的な計画 施設名

保育理念	児童福祉施設である保育所の社会的機能や役割をおさえ、どのような子どもを育てていくか目標を明確にし、そのためにどのような方法で運営していくか、保育の基盤となる考えや、姿勢を記入していく							
保育方針	保育理念に基づき、保育所が目指す基本的な方向である。保育所が持つ役割や機能、保育に対する考え方や地域との関わり方等、具体的に示す			保育目標	保育方針を実現するためのものであり、具体的な子どもの姿をとらえ目指す子ども像を念頭に置き設定する			
保育所の社会的責任	人権尊重		地域交流と説明責任		個人情報の保護と苦情解決			
	保育所は子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの子どもの人格を尊重した保育を行うことを提示する		保育所は地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域の方に保育の方針や内容、保育の意図などを伝えることを明文化する		保育所は、入所する子ども等の個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等に対し、解決を図るよう努めることを明文化			
発達過程とクラスの相関性			地域の実態に対応した事業		保育時間	平日	時分～時分	
子ども一人一人の成長段階を踏まえた上で、各園の実態と関連させ、養護と教育が一体となって保育が展開されるために、			園のおかれている状況や地域性を考慮しながら、地域全体の子育てを視野に入れ、実際の事業や方針なども記載する		土曜日	時分～時分		
					主な園行事	子どもの自主性を尊重し、保育園と家庭での日常生活に変化と違いが持てるように、また、マンネリ化しないように見直しながら計画していく		
子どもの保育目標	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
養護	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために、保育士等が行う援助やかかわりを記入 							
教育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性や連続性をふまえる 養護と教育が一体となって展開される 目の前の子どもの状態や地域の実態に合わせる 長期の指導計画と区別できなくなることも考え、内容を細かくしすぎない 目標とした子どもの姿に育てるためには、各年齢において何に触れさせ、どのような体験をすればよいかを考える 							
食育	乳幼児期にふさわしい食生活や食育が展開されるよう、また、適切な援助が行われるよう計画する。							
健康支援及び安全								
保護者に対する支援	園の状況、子どもや家庭の状況、地域の実態等に応じて各園の取り組みを記入							
職員の資質向上への取り組み								
研修計画								
小学校との連携	園に応じて必要な項目をあげる							

年度 0歳児年間指導計画

園長	主任	担任

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> よく眠り、よく食べ、よく遊び、一人ひとりの生活リズムを大切にす。 安心して保育者との関わりの中で、共に過ごす喜びを感じ、社会性が芽生える。 地域や季節をからだで感じられるよう、風土・文化・自然にふれる。 		保健・安全	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの心身の発達過程やアレルギーの有無、体質などを十分に把握しておく。 園中の安全に十分配慮し、健康チェックを行う。 遊具、玩具の清潔に配慮し、室内外の安全点検を十分にを行い、快適に過ごせるようにする。 騒音や暴飲、嘔吐などの事故が起こらないようこまめに保育室の清掃や点検を行う。 入園までの状況や予防接種・罹患歴を把握し、感染症の予防に努める。 																								
年間区分	I期(4~6月)	II期(7~9月)	III期(10月~12月)	IV期(1月~3月)																								
期のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、心地よく過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者との信頼関係の中で安心して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や戸外遊びなどを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが身につく、寒い季節を元気に過ごす。 																								
養護	生命	<ul style="list-style-type: none"> 体調や機嫌に留意し、毎日の視診をいねいに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて沐浴やシャワーなどを行い、水分補給をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温や運動量に合わせて衣服の調節をし、健康に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 温度・湿度・換気に留意し、冬の感染症予防に努める。 																							
	情緒	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、安心して気持ちよく過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「甘えたい気持ちや欲求を保育者に表し、受け止められる快さを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりのいろいろな物に対し、興味や好奇心を持たせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の愛情豊かな受容とかかわりの中で、安心感をもつて園生活を楽しませる。 																							
子どもの姿	月齢	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	12か月	1歳1か月	1歳2か月	1歳3か月	1歳4か月	1歳5か月	1歳6か月	1歳7か月	1歳8か月	1歳9か月	1歳10か月	1歳11か月				
	身体発達	(食)	おなかがよくふえ、よく寝て知らせる。		母乳食が始まる。		2回食に移行する		3回食に移行する。		4回食に移行する。		5回食に移行する。		6回食に移行する。		7回食に移行する。		8回食に移行する。		9回食に移行する。		10回食に移行する。		11回食に移行する。			
	社会性の発達	(睡眠)	眠りが深く、小刻みな睡眠を繰り返す。		おむつが汚れていると泣いて知らせる。		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射		モロー反射	
	感覚器官の発達	(遊び)	音のなる玩具やあやされることを喜ぶ。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。		手に触れた物を見たりなめたりする。	
	保育者との関わり	室内外の温度・湿度・換気に留意し、過ごしやすい環境を作る。	授乳コーナーや睡眠コーナーなど安心して生活できる環境をつくる。	指先の発達を促し、感覚を刺激するよう手作り玩具を準備する。	園児が十分にたのび配慮し、健康チェックを確実に行う。	表情豊かに呼びかけたり、あやしたり、ゆったりとした声で語りかけるなど、目を合わせて関わ	子ども達の気持ちや要求に応じて、発語を促していく。	安心して園生活が送れるように、一人ひとりの生活リズムを把握し、家庭と共有しながら保育を進める。	子どもの状況に合わせて、授乳や離乳を無理なく進めていく。	保育者とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築けるようにする。	要期の生活の仕方を保護者に知らせ、子どもの状況を随時に伝え、情報共有していく。	離乳食を進めていく際は、保護者とこまめに連携しながら無理のないようすすめていく。	一人ひとりの発達の状況を把握し保護者に伝え、成長を共感しながら保育を進めていく。	保健だより等で感染症について予防方法や対応を知らせ、発生時には、状況をすみやかに伝える。	一人ひとりの発達の状況を把握し保護者に伝え、成長を共感しながら保育を進めていく。	保健だより等で感染症について予防方法や対応を知らせ、発生時には、状況をすみやかに伝える。	一人ひとりの一年の成長を保護者と共感し、進級に向けて楽しみにできるような保育を進める。											
家庭との連携	安心して園生活が送れるように、一人ひとりの生活リズムを把握し、家庭と共有しながら保育を進める。	子どもの状況に合わせて、授乳や離乳を無理なく進めていく。	保育者とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築けるようにする。	要期の生活の仕方を保護者に知らせ、子どもの状況を随時に伝え、情報共有していく。	離乳食を進めていく際は、保護者とこまめに連携しながら無理のないようすすめていく。	一人ひとりの発達の状況を把握し保護者に伝え、成長を共感しながら保育を進めていく。	保健だより等で感染症について予防方法や対応を知らせ、発生時には、状況をすみやかに伝える。	一人ひとりの一年の成長を保護者と共感し、進級に向けて楽しみにできるような保育を進める。																				
保育士の自己評価の視点																												
反省・評価																												

● は環境構成、○ は関わり配慮と分けて記載してあり

◆年間指導計画(1歳以上児)

年度 年間指導計画 (歳児 組)

園長	主任	担任
----	----	----

年間目標				
子どもの姿				
期	1期(月～ 月)	2期(月～ 月)	3期(月～ 月)	4期(月～ 月)
ねらい				
養護	生命の保持			
	情緒の安定			
教育	健康			
	人間関係			
	環境			
	言葉			
	表現			
食育				
環境構成				
保育士の援助と配慮				
健康及び安全				
保護者に対する支援				
職員の資質向上への取組み				
保育士の自己評価の視点				

◆年間指導計画(1歳以上児) -記入のポイント-

年度 年間指導計画 (歳児 組)

園長	主任	担任
----	----	----

年間目標	「全体的な計画」を基盤に、1年間の生活を見通し、子どもの発達や生活の節目により、保育の内容を設定する			
子どもの姿	一年間の発達を見通した子どもの姿と育てたい側面を仮説として示す			
期	1期(月～ 月)	2期(月～ 月)	3期(月～ 月)	4期(月～ 月)
ねらい	子どもの姿をふまえて、育ちつつあるものや育てたいことを「ねらい」とする			
内容	養護	<ul style="list-style-type: none"> 生命の保持 情緒の安定 		
	教育	<ul style="list-style-type: none"> 健康 人間関係 環境 言葉 表現 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいをふまえて、子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、それぞれの時期にふさわしい活動を子どもが経験するように、保育者が意図する内容について記載する ・養護と教育が一体となって、保育が展開されるように記載する 			
	食育	食育は子どもの健康はもとより、文化や人間関係などから保護者支援まで、多岐にわたることをふまえて記入する		
	環境構成	具体的に設定したねらいや内容に添って、子どもが自発的、意欲的な活動を生み出すことが出来るように、人的、物的、自然事象、時間、空間等を考慮し、環境を構成するよう記載する		
	保育士の援助と配慮	子どもの活動が、ねらいや内容の示す方向に向かって展開できるような、援助と配慮を具体的に記載する		
	健康及び安全			
保護者に対する支援				
職員の資質向上への取組み				
保育士の自己評価の視点	子どもの育ちをとらえる視点と自らの保育をとらえる視点の2つの視点から考察し、この期間での保育実践について具体的に記載する			
	この欄については、園の実態に合わせて設定する			

◆月間・週日指導計画(3歳以上)

園長	主任	担任
----	----	----

年度 月の月間・週日 指導計画 (歳児 組)

子どもの姿	ねらい	月の反省				
		1週(日～ 日)	2週(日～ 日)	3週(日～ 日)	4週(日～ 日)	5週(日～ 日)
養護 (生命の保持・ 情緒の安定)	ねらい					
	行事					
教育(健康・人間関係・ 環境・言葉・表現)	環境構成					
	予想される活動					
	保育者の配慮					
食育	週の反省					
健康及び						
保護者への支援	個別対応					

◆月間・週日指導計画(3歳以上児) 一記入のポイント

年度		月の月間・週日 指導計画 (歳児 組)					園長	主任	担任	
子どもの姿	前月末(今月初め)の子どもの生活や遊びの様子をとらえて記載する	ねらい	年間指導計画をより具体化し、子どもの姿をふまえて、養護面と教育面から月における保育のねらいを記載する					月の評反省 自らの1ヶ月の保育実践を反省評価し記載する		
養護 (生命の保持・情緒の安定)	「ねらい」をふまえて、子どもが経験する内容や保育者が意図する内容を具体的に記載する		1週(日～ 日)	2週(日～ 日)	3週(日～ 日)	4週(日～ 日)	5週(日～ 日)			
		ねらい	前週の反省評価をふまえ、次週の計画をたてる養護と教育の視点から記載する							
		行事								
		環境構成	子どもが自主的、意欲的な活動を生み出すように人的、物的な環境を構成するよう具体的に記載する							
		予想される活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践の変更は、赤ペン等で記載してもよい ・活動によっては、週・日にこだわらず記載してもよい ・日々の実践を記録する場合は、墨線を新たに引くなど、工夫する 							
教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)		援助者の配慮	子どもの活動が、ねらいや内容の示す方向に向かって展開できるような、援助と配慮を具体的に記載する							
		週の評反省	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」「環境構成」「保育者の援助と配慮」等を関連付けて、子どもと保育の両面からの反省・評価をする。 ・一週間を経過して、子どもがどのように活動し、どのような姿を見せたのか、子どもの実態に応じて柔軟に対応できるように、次週の計画に反映させる 							
食育										
健康 安全及び										
保護者への 支援の		個別対応	クラス全体の子どもについて配慮する中で、特に個別の対応や配慮が必要な子どもについて記載する							

◆月間・週日指導計画(3歳以上)

年度 月の月間・週日 指導計画 (歳児 組)

異年齢児保育の場合

担任

子どもの姿	ね月のい	月・の 評反 備省	1週(日～ 日)					2週(日～ 日)					3週(日～ 日)					4週(日～ 日)					5週(日～ 日)																								
			ね週 のい					行事					環境 構 成					予 想 さ れ る 活 動					援 助 者 と 配 慮					週 の 反 備 省					個 別 対 応														
								運動会(15日)																																							
養護 (生命の保持 ・情緒の安定)																																															
教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)																																															
食育																																															
健康安全及び																																															
保護者への支援																																															

異年齢保育として共通するねらいや活動、援助等を記入し、それぞれの年齢別に考えたいねらいや活動、援助等は、別に書き加える。

・運動遊び
忍者ごっこ(障害物レース)
リレー
ダンス
・おみこし制作(5歳児)
運動会で使うおみこしを、相談しながら作る。(5歳児)

子ども同士で遊びが始められるように、バトンを準備おいたり園庭に白線を引いておいたりする。
5歳児に憧れる4歳児のために、忍者ごっこに挑戦コーナーを設ける。

様式6の5

保育経過記録・月間指導計画 (0・1・2歳児)

氏名 _____

年 月 日生

年 月	歳 月	所(園)長 主任 担任			年 月	歳 月	所(園)長 主任 担任				
子どもの姿		家庭との連携				子どもの姿		家庭との連携			
養護(生活) 教育(あそび) 健康・安全・食育	保育内容	援助と配慮・環境構成			養護(生活) 教育(あそび) 健康・安全・食育	保育内容	援助と配慮・環境構成				
反省・評価							反省・評価				
備考							備考				

保育経過記録・月間指導計画 (0・1・2歳児)

氏名

記載例

年 月 日生

年 月		歳 か月		所(園)長	主任	担任	年 月		歳 か月		所(園)長	主任	担任	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇ちゃん」と呼ぶと「ア～」と笑顔で答え、勢いよくはって行き、顔を保育者にくっつける。 ・嬉しそうに草や小さな石をつまんで保育者に見せる。 ・満腹になると保育者の顔を見ながら副菜を床に落としている。 			家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コップで水を飲むことを始めたので、家庭でもやってみて欲しいことを伝える。 ・暑さや休日のお出かけなどで体調を崩しやすい時期なので、日々の子どもの様子について家庭とこまめに伝えあう。 			子どもの姿	<p>2つの月を1枚にすることで2ヶ月間の様子が容易に見通せるようにした。一人一人の成長・発達に合わせた連続性のある指導計画にするためには、前月の様子をきちんと把握した上で次月の計画を立てることが大切となる</p>					
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者と気持ちのやりとりをし、安心して遊ぶ。 ・手づかみや食べさせてもらって、楽しく食べられるようにする。 			ねらい									
養護(生活)教育(あそび)健康・安全・食育	保育内容		援助と配慮・環境構成											
	<ul style="list-style-type: none"> ・そばで見守られながら身近な素材で遊ぶ。 ・保育者に関わってもらうことを喜び、答えようとする。 ・食べさせてもらったり、言葉をかけてもらったりしながら、楽しく食べる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・水遊びが楽しめるように玩具を数種類用意する。タライの水深は少なめにし、転倒しないよう目を離さず見守る。 ・「小さい石見つけたね」と発見した嬉しさを共感し、意欲的に遊べるようにする。 ・名前を呼ぶと喜ぶようになってきたので、引き続き関わりを深められるように応答的な関わりを一緒に楽しむようにする。 ・「いっぱい食べた?」「おいしかったね」など言葉をかけ、食事を終えるタイミングを把握し、満足した気持ちに共感する。 											
反省・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊びは、たらいに入りバケツやジョーロで水をすくい、ジャーとかけて楽しむなど、水に触れる経験がたくさんできた。今後も経験させていきたい。 ・食事は手づかみやしやすい形状にすることで、自分でつまんで食べることに集中していた。いろんな味に慣れるよう量を加減したり、「酸っぱいね」と表情を添えて共感しながらすすめ、少しずつ味が味見をするようになった。 ・手先を使った遊びだけでなく、マットの山や平均台にも興味を示し、活発に移動してよじ登ったり、またがったりして体を動かしていた。動きが素早いので引き続き安全に配慮していきたい。 													
	備考	<p>健康面や生活面に関して、園で把握しておくべきことを記載する。 例)長期欠席理由:家庭でのできごと、離乳に関すること、等</p>												

様式6の3

保育経過記録・月間指導計画 2歳児クラス(満3歳児)

氏名 _____ 年 月 日生

	年 月	歳 か月	所(園)長 主任 担任			日 (曜日)	子どもの活動記録	健康状態 (食欲含む)
子どもの姿			家庭との連携			()		
						{		
ねらい			援助と配慮・環境構成			()		
養護(生活) 教育(あそび) 健康・安全・食育	保育内容					{		
					()			
					()			
					{			
反省・評価					()			
					{			
備考					()			

様式6の3

保育経過記録・月間指導計画 2歳児クラス(満3歳児)

氏名 記載例 年 月 日生

年8月	3歳 3か月	所(園)長	主任	担任	日 (曜日)	子どもの活動記録	健康状態 (食欲含む)
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでは、水鉄砲で友達と遊んだり、洗濯ごっこをしたりして楽しんでいる。 ・食事では自分から「これ食べられない」と苦手な食事は口にしない。励まされると1〜2口食べることができている。 	家庭との連携			1 (火)	1日(火) ワニ泳ぎに挑戦する。顔が沈まないように一生懸命首を起こしながら泳ごうとする姿が見られる。	良好
					5 (土)	4日(金) 小刻みに足踏みしていたので「おしっこ出そうのかな」とトイレに誘うとタイミングよく便器で排尿することができた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に夏の遊びを十分楽しむ。 ・楽しい雰囲気の中で語りかけながら苦手なものも食べられるようにする。 ・保育者に誘われてトイレに行こうとする。 	食			7 (月)	7日(月) 食事中、苦手なものが残っていたが「少しだけ味見する？」と保育士が声をかけると、少量食べることができた。「食べられたね。」と保育士がほめるとにっこりする。	8日(火) 微熱37.3℃ 14:20 排便あり (やや軟便)
養護 (生活)	保育内容	援助と配慮・環境構成			12 (土)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に手伝わってもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・尿意や便意を知らせ、トイレで排泄しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことは、子どもなりに考えたり試したりしながら、自分でやろうとしている時には見守り、必要に応じて言葉かけをしていく。できた時には褒めて、自信につなげていく。 ・排尿間隔を把握してトイレに誘い、便器での排尿経験を重ねていくようにする。 					
教育 (あそび)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉で伝えようとしながら、友だちと一緒に遊んだりする。 ・プール遊びや水遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者も一緒に遊ぶ中で、子どもの経験から発した言葉やしぐさをしっかりとらえ、丁寧に応じて関わっていく。また、友だちと遊ぶことが楽しいと思えるように、遊びの気分をつなぐイメージで関わっていく。 ・プール遊びは遊びの内容や、玩具、時間、水量など子どもの状態にあったものを準備する。 			14 (月)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・顔に水がかかっても気にせず、ジョーロやおもちゃで水をすくったり、すくった水をながしたりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びは、子どもの動きから目を離さないように職員間で声を掛け合う。 ・気温や活動量に合わせて、水分補給の回数を増やす。 ・室温を調節しておき快適な空間の中で休息をとれるようにする。 			19 (土)		
健康・安全・食育					21 (月)		
					26 (土)		
反省・評価					28 (月)		
					31 (木)		
備考	プール遊びでは、シャボン玉を出す喜び、プールサイドで楽しんでいた。水が顔にかかると嫌だったが、ジョーロでのんびり遊ぶのは好きで長い時間集中していた。友達と同じイメージを持ちながら「〇〇ちゃんおいでよ」と呼び遊んでいた。人形と風呂敷をうまく組み合わせ、布団にするなど想像力豊かな一面が見えた。 トイレはこまめに行くものの滞っていることも多い。まだためられないような気もする。チェック表を今後つけてみる。						

◆保育経過記録 一記入のポイント

保育経過記録

施設名

子ども	ふりがな		性別	年度			養護 (生命の保持及び 情緒の安定)	年度			年度			年度						
	氏名	名		0歳児	1歳児	2歳児		健康状態	園長	主任	担任	園長	主任	担任	園長	主任	担任			
氏名			男				※0歳児～2歳児までは、入園した年度からその年の育ちを総合的に記載する。(※参照) ※途中入園で0歳児を2回経験する場合は、年度の数字を併記し、入園当初の様子と次年度の一年間の成長を記入する。													
生年月日	年	月	日	担当名	子どもの育ちに関わる事項に ねらい(発達を促せる視点)															
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。																			
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。																			
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。																			
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心をかわせる。																			
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、さまざまな表現を楽しむ。																			
※「子どもの育ちに関わる事項」は子どもの育ってきた過程を踏まえ、その全体像を捉えて総合的に記載すること。 ※「養護(生命の保持及び情緒の安定)に関わる事項」は、子どもの生命の保持及び情緒の安定に関わる事項について記載すること。また、子どもの健康状態等について、特に留意する必要がある場合は記載すること。 ※「教育に関わる事項」は、子どもの保育を振り返り、保育士の発達援助の視点等を踏まえたうえで、子どもの心情・意欲・態度等について記載すること。 ※子どもの最善の利益を踏まえ、個人情報に留意し、適切に取り扱うこと。																				
			園長			主任			担任			園長			主任			担任		

○個別支援計画:育ちの支援ノート
 ・保護者と保育園が記入

育 ち の 支 援 ノ ー ト

施設名

お子さんの名前		生年月日	年 月 日生 (オ 月)
---------	--	------	---------------

		お子さんの様子		具体的な関わり方や配慮事項 (家庭や園で)
		家庭	保育園	
遊 び	好きなことや得意なこと			
	苦手なことや嫌いなこと			
生 活	食事			
	排泄			
	衣服の着脱			
	睡眠			
友 だ ち や 人 と の か かわ り	好きなことや得意なこと			
	苦手なことや嫌いなこと			
お 子 さ ん に 関 わ る 全 般 の こ と				

専門機関との連携	家庭内の協力体制
----------	----------

保護者と保育園の連携・取り組み

<短期の目標> <具体的な方法・内容・配慮等>	<長期の目標> <具体的な方法・内容・配慮等>
--------------------------------	--------------------------------

年 月 日記入

(記入者名)

○個別支援計画:育ちの支援ノート(記載例)

・保護者と保育園が記入

育ちの支援ノート

施設名

お子さんの名前	○○ □□	生年月日	○年 ○月 ○日生 (○才 △か月)
---------	-------	------	--------------------

		お子さんの様子		具体的な関わり方や配慮事項 (家庭や園で)
		家庭	保育園	
遊び	好きなことや得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> 歌 踊り ハサミ、テープを使って作る 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼ごっこ、ブランコ、かけっこ 砂遊び、粘土 お絵かき 	<ul style="list-style-type: none"> 1対1で関わり、一緒に遊びながら楽しむことができるようにする 自由に制作ができるように環境を整える
	苦手なことや嫌いなこと	<ul style="list-style-type: none"> パズルやブロック 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 無理をせず、他児の遊びの様子を見て興味をもてるようにする。
生活	食事	<ul style="list-style-type: none"> フォークを使い、残さず食べる 	<ul style="list-style-type: none"> 手づかみや箸を使い、偏食なし 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉をかけながら食事を楽しむことができるようにする
	排泄	<ul style="list-style-type: none"> 便は紙おむつでする 	<ul style="list-style-type: none"> 尿意を知らせるので、介助すると失敗がない 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄ができたことをほめ、安心感や自信を持つことができるようにする
	衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> コート類は自分から脱ぐが着るときは手伝う 	<ul style="list-style-type: none"> コートを脱いで始末することが出来る 言葉かけで着脱しようとするが援助が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で出来るようにさりげなく援助をする
	睡眠	<ul style="list-style-type: none"> きまぐれタオルをもって眠る 	<ul style="list-style-type: none"> 担任がそばにしていると眠る 	<ul style="list-style-type: none"> 母親や担任が傍にいて安心して寝つくことができるようにする
友だちや人との	好きなことや得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かして遊ぶこと 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の抱っこやおんぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 甘えてきた時は、しっかり受け止める
	苦手なことや嫌いなこと	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 物の貸し借りや待つこと 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士が仲立ちとなり「かして」など言葉で伝えるよう教えていく
お子さん全般のこと	<ul style="list-style-type: none"> 1対1で関わってもらえる時に、母親のところへ行き甘えている 			<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを受け止め、ゆっくりと話すなど1対1の関わりを大切にする

専門機関との連携 ・○月○日 □□療育センター △△先生と母親、担任と面談する 本児の遊ぶ姿をみてもらい、今後の関わりかたについてアドバイスを受ける	家庭内の協力体制 ・同居ではないが、体調が悪いときなど母方祖父母の協力を得ることができる
---	---

保護者と保育園の連携・取り組み

<短期の目標> ・保育士と一緒に食事の準備や片付けをする <具体的な方法・内容・配慮等> ・他児の姿など周りの様子を知らせ、次の行動に移るときに戸惑わないようにする ・言葉かけをしながら見守り、必要な時は手伝いできたことを認め、喜びを共感する	<長期の目標> ・身の回りの事ができるようになる <具体的な方法・内容・配慮等> ・日々の繰り返しの中で一緒に行いながら、流れを知らせていく ・本児の気持ちを言葉で代弁するなど受容しながら他児との関わりを丁寧に知らせていく
---	---

○年 ○月 ○日記入

(記入者名 ○△ △□)

(記入者名 ○○ □□)

年度 個別の指導計画

(作成年月日: 年 月 日)

氏名	年 月 日生 (歳 か月)	園長	主任	担任
----	-------------------	----	----	----

子どもの姿	長期目標			
	短期	月～ 月	月～ 月	月～ 月
家庭での様子・保護者の願い	短期 人との生活・かかわり か遊び			
	目標 具体的な援助や 手立て			
医療・専門機関との連携	評価・今後の課題			

年度 個別の指導計画

(作成年月日: 年 月 日)

氏名	年 月 日生 (歳 か月)	園長	主任	担任
----	-------------------	----	----	----

子どもの姿	長期目標	月～月	月～月	月～月
生活・遊び・人のかかわりについて、今までの育ちを踏まえて子どもの姿を記入する。	短期目標 人との生活か遊び 具体的な援助や手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で、担任や友達の話の話を静かに聞けるようになる。 ・「かして」「よせて」など場面に合った言葉で友達とやり取りして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や友達の話の途中で話し始めても、全てを受け答えしたり禁止したりするのではなく、「今は話を聞く時」であり後で必ず質問を受けることを伝える。 ・子どもの気持ちに沿って、始めは保育士も一緒に「かして」や「よせて」を言ったり、気持ちを代弁して遊びの仲立ちをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し我慢して話が聞けた時にその姿を認めるように関わると、穏やかになり保育士の話も入りやすい。肯定的に認める機会を増やし自信を持たせたい。 ・保育士が仲立ちをすると少し待つことができるが、思い通りにならないと暴言を吐くことがある。穏やかな時間に、言葉のやり取りを遊びとして行い言葉がスムーズに言えるようにしたい。
家庭での様子・保護者の願い 保護者との会話や連絡帳でやり取りした内容や家での様子、保護者の思いを記入する。育ちの支援ノートで共有した保護者の願いを記入する。		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿に合わせて期間を設定する。短期目標が達成したら、次の短期目標へつなげていく。欄が足りない場合は、2枚目を使用する。 ・スモールステップで目標を立て、子どもの立場で「～する」等、具体的に表現する。 ・保育士の立場で、目標を達成するために、どのような支援をどのような場面で行うかについて、具体的に記入する。手立ては環境面・援助面の両面から考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な援助や手立てを行った結果として子どもの姿を客観的に評価し、次の課題を見つけ、次の目標へつなげていく。 	
医療・専門機関との連携 医療・専門機関とどのように連携し、どのような支援や助言を受けているのか、育ちの支援ノート等を活用して記入する。	評価・今後の課題			

保 育 日 課 表

(デイリープログラム)

歳児

子どもの活動	時 間	保 育 者 の 配 慮	職員の 協力体制

保育日課表
(0歳児参考例)

保 育 日 課 表

(デイリープログラム)

0歳児

子どもの活動	時 間	保 育 者 の 配 慮	職員の協力体制
登 園		<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を整え、温かい態度で迎え入れ、保護者や子どもに挨拶や言葉がけをしながら視診をして、受け入れる。 	<p>連絡事項は正しく書きとめ、正確に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調 ・与薬 ・迎えに関すること 他 <p>子どもが一人でも寝る場合は、うつぶせ寝を返ししながら睡眠チェックする職員を置く体制を整える。</p>
遊 び		<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者からの連絡事項は、確実に担任へ申し送る。 ● 障がい児や特別な配慮を必要とする子どもの受け入れに当たっては、安全管理や個別対応など配慮する。 ● 早朝保育では異年齢の混合保育となることから、誤飲につながるような玩具の使用はしない。 ● 連絡帳などで家庭での健康状態および生活の様子を把握する。 	
検 温		<ul style="list-style-type: none"> ● 抱っこして安心した状態で検温する。 	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● おむつ交換は、言葉がけとスキンシップをしながら、随時取り替え、心地よさを感じるようにする。 ● 排便の回数、便の状態からその子どもの体調を把握する。 	
遊 び		<ul style="list-style-type: none"> ● 優しく話しかけながら、一人一人の発達に応じた活動を十分する。 ● 発育、発達状態をよく把握し、寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなど、一人一人に合った活動を十分に行えるように援助する。 	
(睡 眠)		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の生活リズムと、発達・個人差に合った時間帯を考慮する。 	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● おむつ交換は、言葉がけとスキンシップをしながら、随時取り替え、心地よさを感じるようにする。 	
離乳食・授乳		<ul style="list-style-type: none"> ● やさしく抱き、言葉がけをしながらゆったりと授乳する。 ● 離乳食は、その日の体調など家庭との連絡をとおして把握し、「おいしいね」などと話しかけながら与える。 ● 優しく話しかけながら、一人一人の発達に応じた活 	

遊び・外気浴		<p>動を十分する。</p>	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● おむつ交換・離乳食・授乳は、一人一人に合わせて随時行う。 	
睡眠		<ul style="list-style-type: none"> ● 睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態をきめ細かく観察し記録する。 	
目覚め		<ul style="list-style-type: none"> ● 睡眠は落ち着いた雰囲気の中で、安心できる環境を整え安全に留意する。 	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の寝つき方を知り気持ちよく眠れるように配慮する。 	
目覚め		<ul style="list-style-type: none"> ● 目覚めたら、睡眠中の子どもの妨げにならないよう、おむつ交換をして楽しく遊ばせる。 	<p>子どもが一人でも寝る場合は、うつぶせ寝を返しながらか睡眠チェックする職員を置く体制を整える。</p>
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● おむつ交換・離乳食・授乳は、一人一人に合わせて随時行う。 	
離乳食・授乳		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人に合わせて離乳食や授乳を援助する。 	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● 発育、発達状態をよく把握し、寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなど、一人一人に合った活動を十分に行えるように援助する。 	
遊び		<ul style="list-style-type: none"> ● 延長保育時は、家庭的な雰囲気の中なかでくつろいで、0歳～5歳児まで一緒に過ごす。 	
遊び		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人が好きな遊びができるように配慮する。 	
順次降園		<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢差の子ども同士で遊ぶような工夫をする。 	
授乳		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人の子どもの様子など、必要に応じて家庭に連絡する。 	
(おやつ)		<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭的な雰囲気の中なかで一緒に過ごす。 	
おむつ交換		<ul style="list-style-type: none"> ● その日の健康状態・活動・授乳の状態などについて、迎えの時に具体的に連絡する。(連絡帳と併せて) 	<p>保護者への連絡等で子どもから目を離す場合は、必ず声を掛け合い、他の保育士等が責任をもって見守る</p>
おむつ交換			
降園			
降園			

保 育 日 課 表

(デイリープログラム)

3歳以上児

子どもの活動	時 間	保 育 者 の 配 慮	職員の 協力体制
<p>登 園</p> <p>身 支 度</p> <p>午前中の 活動や遊び</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ 朝 の 会</p> <p>・ 自由遊び</p> <p>・ 設定保育</p> <p>・ 散 歩</p> <p>・ 園外保育 等</p> </div> <p>昼 食</p> <p>午 睡</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を整え、温かい態度で迎え入れ、保護者や子どもに挨拶や言葉がけをしながら視診をして、受け入れる。 ● 保護者からの連絡事項は、確実に担任へ申し送る。 ● 障がい児や特別な配慮を必要とする子どもの受け入れに当たっては、安全管理や個別対応など配慮する。 ● できるだけ自分のことが自分で出来るような言葉がけを行い、個々に応じて必要な援助をする。 ● 指導計画に沿った活動になるよう、「設定保育」「自由保育」等適宜選択し保育を行う。 ● 環境を整え、子どもたちと一緒に遊ぶ中で、温かく関わりながら、いろいろな遊びや物の使い方を正しく伝えたり、自主的に遊びが展開できるように配慮する。 ● 散歩など戸外に出かける機会も積極的に取り入れ、いろいろな経験をさせる。 ● トイレに行くことをせかしたり、強制したりせず一人一人の排泄の欲求に合わせる。 ● 「食育」の考え方を大切にし、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾りつけなども工夫する。 ● 楽しい雰囲気の中で食事をすすめながら、マナーを知らせ身につくようにする。 ● 食後の歯磨きの仕方が身につくように援助する。 ● 落ち着いた雰囲気の中かで、午睡や休息が十分できるように配慮する。 ● 子どもたちが快い疲労感を感じて昼寝に入れるよう、十分な遊びの場や時間を設けるようにする。 	<p>連絡事項は正しく書きとめ、正確に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの体調 ・ 与薬 ・ 迎えに関する こと 他 <p>複数で対応する時は、必ず声に出して確認する。</p> <p>職員の休憩等で交代する場合には、睡眠チェック等切れ間なく行えるよう、声に出して伝達する。</p>

<p>お や つ 遊 び</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しく会話を交わしながら、おやつをすすめる。 ● 一人一人が好きな遊びができるように配慮する。 ● 年齢差の子ども同士で遊ぶような工夫をする。 ● 家庭的雰囲気の中かで、自主的に遊びが展開できるように、環境を整え十分に関わる。 	
<p>順次 降園</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人に応じて身支度、降園の準備など見届ける。 ● 一人一人の子どもの様子など必要に応じて家庭に連絡する。 ● 次々にお迎えが来るなかで不安を抱いている子どもに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定して待つことができるよう適切な対応をする。 	<p>保護者への連絡等で子どもから目を離す場合は、必ず声を掛け合い、他の保育士等が責任をもって見守る</p>
<p>降 園</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶を交わしながら、明日への期待につなげていく。 	

行事計画と反省

行事計画と反省			園長	主任	担当(担任)
行事名		場所・会場			
実施年月日	年 月 日 ()	対象	全園児 3歳未満児 3歳以上児 ()歳児 保護者 その他()		
ねらい					
日程及び内容			指導上の留意点		
時 分開始 時 分終了予定			準備・環境構成		
役割・分担			備考		
反省・評価					

○行事計画と反省(記載例)

行事計画と反省			園長	主任	担当(担任)
行事名	節分・豆まき大会	場所・会場	遊戯室		
実施年月日	○年2月3日(火)	対象	全園児 3歳未満児 3歳以上児 ()歳児 保護者 その他(地域の未就園児とその保護者)		
ねらい	◎豆まきに参加して、その雰囲気を楽しむ。 ◎節分について知り、それにちなんだ表現活動を楽しみ、興味や関心を広げる。				
日程及び内容		指導上の留意点			
10時00分開始 11時00分終了予定		<p>〈事前指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラスの実態に応じて、節分・豆まきのいわれについて話すとともに、歌、踊り、制作など節分にちなんだ遊びを通し、期待感を持って参加できるようにしておく。 鬼役の登場、退場等の方法について、事前に打ち合わせをしておく。 <p>〈当日〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 0、1歳児クラスは、一人一人の状態に合わせ、参加できるところだけにする。 拾った豆は食べないように約束するとともに、未満児が間違っって口に入れないようにする。 終了後、各クラスで節分・豆まき大会について話をし、心の中の鬼について発表したりする。 			
・9:55	お面、豆を入れるマスを持って、集合する。	<p>準備・環境構成</p> 			
・10:00	歌「豆まき」 園長先生のお話 各クラスごとに、鬼の面などの発表 鬼の登場 みんなで鬼退治 歌「鬼のパンツ」				
・10:30	各クラスごとに豆まき ○○組から○○組へ ○○組から○○組へ				
・10:50	年の数だけ豆を食べる。				
・11:00	おわり 保育室へ				
役割・分担		備考			
<ul style="list-style-type: none"> 鬼の依頼・・・○○ 鬼の衣装担当・・・○○ 豆等の購入・・・○○ 写真撮影・・・○○ ピアノ・・・○○ 音響担当・・・○○・○○ ○○担当・・・ 		<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の親子 受付・・・○○ 担当・・・○○ おみやげの用意・・・○○ 司会・・・○○ 			
反省・評価		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度 豆の購入量・・・○kg. 鬼の役・・・○○ 未就園児参加数・・・○人 			
反省・評価		<ul style="list-style-type: none"> ・○○クラスは、事前に鬼が近くに来ないように打ち合わせがしてあったために、保育士に抱っこされたりすることで、こわがらずに参加できた。 ・未就園児は、○人、その保護者は○人で昨年より多かった。年長組がまく豆を喜んで拾っていた。 ・事前に各クラスで話や絵本等を読んでもらったり、歌をうたっていたので、子ども達はとても張り切って参加し、「おもしろかった」「また鬼が来たらみんなでやっつけようね」など楽しそうな会話が聞かれた。 			

保育所児童保育要録（入所に関する記録）

児 童	ふりがな 氏 名			性 別	
		年	月		
	現住所				
保 護 者	ふりがな 氏 名				
	現住所				
入 所	年	月	日	卒 所	年 月 日
就学先					
保育所名 及び所在地					
施 設 長 氏 名					
担当保育士 氏 名					

保育所児童保育要録（保育に関する記録）

本資料は、就学に際して保育所と小学校（義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。）が子どもに関する情報を共有し、子どもの育ちを支えるための資料である。

ふりがな		保育の過程と子どもの育ちに関する事項	最終年度に至るまでの育ちに関する事項
氏名		(最終年度の重点)	
生年月日	年 月 日		
性別		(個人の重点)	
ねらい (発達を捉える視点)			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	(保育の展開と子どもの育ち)	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。		
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。		
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。		
環境	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。		
言葉	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。		
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
表現	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	健康な心と体	
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	自立心	
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせ	協同性	
	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。	道徳性・規範意識の芽生え	
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	社会生活との関わり	
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	思考力の芽生え	
	(特に配慮すべき事項)	自然との関わり・生命尊重	
		数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	
		言葉による伝え合い	
		豊かな感性と表現	

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

- 保育の過程と子どもの育ちに関する事項
- *最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。
- *個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。
- *保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、（保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して
- 子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。
- *特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。
- 最終年度に至るまでの育ちに関する事項
- 子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

<p>保育所保育指針第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第2章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性にに応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。</p>	
健康な心と体	<p>保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>
自立心	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>
協同性	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>
道徳性・規範意識の芽生え	<p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>
社会生活との関わり	<p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>
思考力の芽生え	<p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>
自然との関わり・生命尊重	<p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
言葉による伝え合い	<p>保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
豊かな感性と表現	<p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>

保育所児童保育要録（保育に関する記録）の記入に当たっては、特に小学校における子どもの指導に生かされるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に子どもの育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

年度 年間保健計画

目標												
ねらい	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>											
年齢 目標別の	2か月以上 1歳未満											
	1歳以上 3歳未満											
	3歳以上											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標												
全体の留意点												
保健行事												
保護者との連携												
環境整備												

年度

食育計画

施設名

園長	主任	関係者

保育園の目標								
年齢	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
ねらい								
	内 容							
健康								
人間関係								
食文化								
食への興味								
援助と配慮								
家庭や地域との連携								

— 記入のポイント —

園長	主任	関係者

年度		食育計画					施設名	
保育園の目標		保育所における食育は、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うこととされているが、食を通してどのような育ちを期待するか考え目標とする。						
年齢	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
ねらい	保育の基本的な計画である「全体的な計画」で示された食育の視点を踏まえ、食をめぐる体験を通して、どのような子どもに育つことを望むのか、職員間で確認しあい、具体的な活動のねらいを示す。 なお、受け入れている最年少児から最年長児までの発達特性を踏まえて、全過程の子どもの経験を見直し、一貫性や系統性をもって計画する。							
内 容								
健康								
人間関係	年齢別に子どもの発達の特徴を踏まえて、「健康」「人間関係」「食文化」「食への興味」に関する事項に分けて考える。 なお、発達の特徴からみて、各項目を区別することが困難な3歳未満児については各項目に配慮してまとめて計画してもよい。 いずれの年齢も、手引きの「保育所における食育に関する指針」や「食べる意欲や機能の発達とその支援」を参考に計画する。							
食文化								
食への興味								
援助と配慮	食べ方やマナーなどの習得、食への興味を引き出すための援助や支援など、手引きの「保育所における食育に関する指針」や「食べる意欲や機能の発達とその支援」を参考に計画する。							
家庭や地域との連携	家庭にたいしては、園便り等の発信や、保護者会をとおして給食やおやつを試食会、親子クッキングなどを企画し、子どもの様子や食育の実践活動を伝えるなど、保護者の食育に対する関心を高めるための内容とする。 地域の多くの専門機関（食育・花育センター等）、食品の生産者や販売に携わる業者と連携するなど、子どもの豊かな食体験につながるような内容とする。							

食育実施計画・評価

園長	主任	関係者

実施内容			
ねらい			
期日	年 月 日	担当者名	
クラス名		人数	
プログラム	こどもの活動	保育者のかかわり	給食関係者のかかわり 及び準備
記録			
保護者との連携			
評価			

食育の取り組み経過記録表

子どもの様子・動き	保育者の対応・配慮
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	

プール日誌

年 月 日 (曜日)		天気		
利用時間	時 分	時 分	時 分	時 分
クラス名				
入泳人数	人	人	人	人
気 温	℃	℃	℃	℃
水 温	℃	℃	℃	℃
残留塩素測定 プール遊び開始前の値	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
消毒剤追加時間	時 分	時 分	時 分	時 分
消毒剤追加後の値	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
監視者名				
備考				

年 月 日 (曜日)		天気		
利用時間	時 分	時 分	時 分	時 分
クラス名				
入泳人数	人	人	人	人
気 温	℃	℃	℃	℃
水 温	℃	℃	℃	℃
残留塩素測定 プール遊び開始前の値	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
消毒剤追加時間	時 分	時 分	時 分	時 分
消毒剤追加後の値	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
監視者名				
備考				

防火管理自主点検表

年 月

火元責任者

消防用設備関係においては最終責任は防火管理者とする。

一般火気関係と施設等においては最終責任は延長保育担当保育士等とする。

組保育室担当

組保育室担当

事務室担当

組保育室担当

組保育室担当

遊戯室担当

組保育室担当

組保育室担当

調理室担当

施設名

防火管理者(園長)		防火管理責任者(主任保育士)										延長保育担当保育士等																				
点検事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
一般火気関係	1	ガスのコック、元栓は閉まっているか																														
	2	湯沸器の余燃はどうか																														
	3	吸殻等落ちていないか																														
	4	階段等に障害物はないか																														
	5	非常口の管理はよいか																														
	6	通路の有効幅員は確保されているか																														
	7	温風消毒保管庫の確認はよいか																														
施設・火気	1	施設(窓・欄間・入口)の確認 電源、器具のスイッチ・コンセントの確認 (テレビ・電灯・扇風機・換気扇他)																														
	2																															
	3	暖房器具の消火の確認(ストーブ他)																														
上記点検の結果施設火気異常なし																																
処置 点検者	火元責任者(延長保育担当) (印)																															
消防設備関係	1	消火器は所定の場所にあるか																														
	2	消火器の標示は明確であるか																														
	3	消火器の周囲に障害物はないか																														
	4	消火器は避難上、障害とならないか																														
	5	避難器具は所定の場所にあるか																														
	6	通報設備の機能は良いか																														
点検者	防火管理者(園長) (印)																															

※ 印はサインでも可

交通安全 年間指導計画

施設名

目 標	ね ら い			
	1期	2期	3期	4期
内 容				
保 育 士 の 配 慮				

交通安全 年間指導計画

施設名

記載例

目標	◎交通事故から幼児の生命を守る				ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ・大切さを知らせる。 ・基本的な交通のきまりを知らせ、進んで守るようにする ・安全に行動ができるよう、習慣や態度を身につける。 			
期	1期	2期	3期	4期					
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎道路の正しい歩き方 <ul style="list-style-type: none"> ・右側を歩く ・歩道、路側帯を歩く ◎道路の正しい渡り方 <ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道を渡る ・信号の意味を理解し守る ・左右の安全を確認する ◎飛び出しをしない <ul style="list-style-type: none"> ・一旦止まる事を身につける ・道路には飛び出さない ◎乗り物の正しい乗り方 <ul style="list-style-type: none"> ・安全な乗り降りの仕方を知る（自転車・車・バスなど） ・チャイルドシートを着用する 	<ul style="list-style-type: none"> ◎雨の日の交通安全 <ul style="list-style-type: none"> ・傘や雨具等の正しい扱い方を知る ・雨の日は、目立つ物を身につける ・道路の水溜りで遊ばない ◎危険な場所や危ない遊びを知る <ul style="list-style-type: none"> ・安全な所で遊ぶ ・路上、駐車場などで遊ばない ・自転車は保護者の目の届く安全な所で乗る ◎見通しの悪い所から飛び出しをしない <ul style="list-style-type: none"> ・止まっている車の直前、直後の飛び出しは危険が大きいことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な交通のきまりを守り安全な行動をする <ul style="list-style-type: none"> ・身近な標識、標示を知る ・日常生活に必要な交通のきまりを知る ◎遊びを通して安全に行動できる運動能力や判断力などを身につける ◎生命の大切さを知る <ul style="list-style-type: none"> ・生命の大切さがわかる ・生命のあるものに愛情を持つ ・他人に思いやりの心を持つ ・進んで生命を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ◎雪の日、寒い日の安全な歩き方を身につける <ul style="list-style-type: none"> ・冬の道路はすべりやすく、歩きにくいので危険であることを知る ・防寒具を着用すると動きにくく視野も狭くなり、危険が多くなる事を知る ◎交通安全の大切なことを再認識する ◎生命の大切さがわかり、安全は自分で守らなければならないことを知り、守るようにする ◎生命を守ってくれる人に感謝の気持ちを持つ 					
保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・右側通行、道路の渡り方、乗り物マナーなど、様々な場面で繰り返し、体得できるよう指導する ・日頃の保育の中で、情緒の安定を図り、落ち着いた行動がとれるよう心がける ・散歩マップを作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・傘や雨具等で動きが悪く車が見えにくくなり危険が多くなる事を知らせる ・路上での遊び、駐車場や車の陰での遊び、飛び出しの危険性などを具体的にわかるよう、繰り返し教え、交通事故の恐ろしさを知らせる ・地域、保育園周辺の危険箇所を調べておく（日常子どもが遊んでいる場所の安全の確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる知識だけでなく、登降園、散歩などその場に応じた適切な体験指導を繰り返し行う ・日常の楽しい遊びを通して自然に機敏性、判断力など安全への意識を高め、安全能力が身につくようにする ・生命の大切な事をわかりやすく教えと共に、生命を守る心を育てるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場の危険箇所、安全な通行方法、交通ルールなど具体的に指導する ・年間の指導を振り返り、その成果を確かめ、不十分なところを留意し指導する ・保護者や、地域の人々の協力によって、事故から守られていることを知らせる 					
配	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への協力を依頼する 1. 登降園の折りに車や自転車などを利用してはいる場合は、特に飛び出しの危険性など、安全に留意してもらう 2. チャイルドシート着用 3. 家庭でも正しい交通ルールを身につけられるよう大人が手本を示す 								
慮				<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学に向けて、学校までの道を一緒に歩き危険なところを話し合ってもらう(年長児) 					

年度

体力作り年間計画

施設名 _____

■目標:

年齢	ねらい	活動内容	環境構成及び配慮
0歳児			
1歳児			
2歳児			
3歳児			
4歳児			
5歳児			

●目標： 四季折々の自然の中で体を使って遊んだり、散歩をして体力をつける
 いろいろな道具や用具を使って、運動あそびを楽しむ

年齢	ねらい	活動内容	環境構成及び配慮
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> 保育者とふれあい遊びを通してそれぞれの月齢と発達に応じた体を使った遊びを楽しむ 体調の変化に気を配りながら、園庭や園の近所を散歩しながら、自然を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃを使って、獲返りや覆ぼいで遊びを誘ったり、はいはいを促したりする 保育士のおおきな上により登らせたり、滑り台にしてふれあいながら全身の動きを誘う 園庭や近所を歩いたりベビーカーで散歩を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃは口の中に入れてはくので常に清潔に保つ。 愛情に満ちた接し方を通して情緒の安定を図りながら自然な形で体を使った遊びに誘う。 気候や一人ひとりの体調に配慮し健康で気持ちよく過ごせるようにする。
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 園庭遊びや散歩など戸外であそぶ時間を多く持ち気持ちよく過ごす。 保育者や友達と一緒に体を動かす遊びを楽しむ 音楽や歌に合わせて体を動かして楽しむ 食事、排泄、睡眠などの生活リズムを整えて一日を機嫌よく快適に過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ハギーや散歩カーに乗って出かけたり、園庭散策や、滑り台などであそぶ 誘導ロープにつかまって歩く 音楽に合わせて、体探や踊りをする 巧技台・マットなどを利用して、上がる、滑る、転がる、跳ぶなどの全身運動を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの発達段階を把握して援助の仕方を工夫する（一人で歩く、手を引く、誘導ロープに捕まる、ハギーに乗せるなど） 前後の間隔を十分に取り、つますいたりぶつかったりしないようにする 個々の好みなども考慮し、一緒に楽しめるものを見つけて無理なくできるように配慮する 子どもの興味や発想を大切にしながら、いろいろな動きを一緒に楽しめるよう柔軟性を持って対応していく 家庭との連絡を密にして体調を把握し、快適に過ごせるようにする
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育士と一緒に全身を使った遊びを楽しむ 体を使ったいろいろな遊びを楽しむ 自然に触れて遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使った遊びを楽しむ 戸外遊びや散歩を楽しむ 固定遊具で遊ぶ 簡単な曲や体探に合わせて体を動かして遊ぶ 季節の遊びを楽しむ（泥んこ・水遊び・落ち葉拾い・雪遊び） こっこ遊びや簡単な集団遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康状態を把握して楽しく遊びが発展するよう環境を整える いろいろな運動遊びに挑戦しようとする気持ちを大切にしながら安全に遊べるよう十分配慮する 散歩は一人ひとりの歩くペースを考慮し、無理のないように行う 固定遊具の使い方を知らせ危険の無いよう安全に遊べるように配慮する 簡単なルールを取り入れ追いかけっこをしたり、繰り返しのある集団遊びを取り入れ楽しめるようにする
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> 道具・用具を組み合わせて、全身を使って遊ぶ 戸外で思いっきり体を動かして遊ぶ 散歩や遠足など自然に触れて遊ぶ 友達や保育士とゲームやリズム遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 固定遊具や砂場の安全な使い方を教えて遊ぶ 戸外遊びや散歩、遠足を楽しむ 簡単なゲームやリズム遊びを楽しむ 季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・サーキットゲーム・正月遊びなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びが発展するように園内外の遊具や玩具の安全に配慮する 日々の遊びの中で無理なく取り入れていく 一人ひとりの興味や関心、自分から表現しようとする気持ちが育つよう配慮する それぞれの季節を気持ちよく快適に過ごせるよう環境の整備と工夫をする
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と一緒に戸外遊びや散歩を楽しむ 友達と一緒に全身を使って運動遊びを楽しむ ゲームやリズム遊びを楽しむ ルールのある遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 園庭の固定遊具を安全に使って遊ぶ 友達と散歩や簡単なルールのかっこ、鬼ごっこ、サッカーなどを楽しむ マット運動や鉄棒、ポール、なわとび、サーキットゲームなど道具を使って遊ぶ いろいろな曲に合わせて踊ったり、表現したりする 季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・正月遊びなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自分から遊びに取り組みめるように環境を構成し、ひとり一人の遊びや気持ちの変化を把握して必要に応じて環境を変化させる さまざまな運動遊びに意欲的に取り組めるよう、適切な介助や言葉掛けをする 個々のペースを大切にしながら頑張りや認めを自信へとつなげていく 保育者も一緒に表現遊びを楽しみながら体を動かす楽しさを共有する 運動しやすい時期を逃さず戸外でのびのびと体を動かす、運動機能を高めるようなあそびを工夫する いろいろな遊びが十分楽しめるように遊具を用意すると共に遊びの場を整えておく
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に戸外遊びを楽しむ 園庭遊び、園外散歩を楽しむ リズム遊びやさまざまな運動遊びを楽しむ ルールを理解して友達と運動遊びを楽しむ 用具を使った遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> おにごっこなどルールのある遊びを楽しむ 様々な用具や遊具を使い体を思い切り動かして遊ぶ（サーキット・リレー・サッカー・縄跳び、ボール、鉄棒、リズム体操など） 季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・正月遊びなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 共通のルールを理解して集団での遊び、体を十分に使った遊びを工夫する 考えながら（友達と相談しながら）行動する遊びの提案する 大好きな曲に合わせて集合、並ぶ、跳ぶなど模倣遊びを繰り返したり、簡単なルールのある遊びをすることで、楽しく運動経験を重ねられるように工夫する 遊びの中に体力、リズム感、空間認知能力等を養う運動を取り入れる工夫をする

不審者対応防犯訓練年間指導計画

年間目標

<ねらい>

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

不審者対応防犯訓練年間指導計画

記載例

年間目標

- ・園舎の安全管理に常に配慮し、外部からの不審者の侵入を防ぐ
- ・訓練を繰り返し行い、被害を最小限度にとどめる

<ねらい>

- ・不審者に近づかないことを知る
- ・身を守る方法を知る
- ・全職員は子どもを守るために状況に応じた適切な行動がとれるよう訓練を行う

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	職員で対応マニュアルを確認する	不審者対応マニュアルを確認する お散歩マップを検討する	・保育園独自の対応マニュアルを確認しあい、担当する子どもをしっかり覚える ・散歩の場所や通行経路の安全について検討を行い周知する
5月	安心・安全について知る	子ども自身が安全・安心について考える ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (行かない・乗らない・大声を出す・すぐ逃げる・知らせる)	・お話や紙芝居を通して、安心・安全について知らせる
6月	不審者侵入	玄関より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安をもたせないよう配慮する
7月	いろいろな場合の不審者侵入対応について確認し合う	園庭・非常口等の侵入に対しての子どもの安全確保について確認し合う	・具体的な想定について話し合い適切な行動が取れるよう各自確認する
8月	プール遊びでの不審者目撃	プール遊びでの不審者対応を行う	・子どもたちに不安を持たせないよう配慮する ・施設管理や防犯対策の徹底
9月	散歩時、不審者と遭遇	保育者の指示に従い迅速に行動する	・不審者対応と子どもの安全確保に努める ・職員の役割分担を臨機応変に行う ・園外に行くときは、携帯電話・警報ベル等を持参する
10月	不審者侵入	園庭より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安感を持たせず移動させる
11月	園開放未就園児親子への啓発	保育園の不審者対応について知らせる	・不審者侵入防止のために保育園が行っている体制について説明を行い、理解と協力をお願いする
12月	誘拐や連れ去り	さまざまな場面を想定して子どもたちと共に考えながら知らない人に声をかけられたらどうするかを考える	・紙芝居やペープサート等を使ってお話の中のこととして、不安を持たせないように配慮する。
1月	不審者侵入(延長保育時)	玄関より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安を持たせないよう配慮する ・担任にかかわらず近くにいる保育者の指示に従うよう指導する
2月	安心・安全について再確認する	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ (行かない・乗らない・大声を出す・すぐ逃げる・知らせる)	・特に、年長児は就学を控えひとりで行動する機会が増えるため安心・安全の理解を深める
3月	対応マニュアルについて検討	今年度の取り組みについて反省評価をする	・不審者対応について問題点がないか話し合い次年度に繋げていけるようにする

不審者対応防犯訓練実施記録簿

園長		主任		担当		実施 月日	年 月 日 ()	天候()	午前・午後	時	分	～	時	分
参加人員		児童 名 職員 名 計 名												
不審者想定		園児への安全教育 ・ 園内暗号の周知訓練 ・ 通報連絡訓練 ・ 不審者侵入 保育園外での不審者 ・ その他()												
ねらい														
使用避難用具														
訓練当日の 状況想定 (想定図も記入)														
実施状況														
評価 反省														
回覧														

* 不審者想定欄は、該当する箇所にすべて○を付けてください。

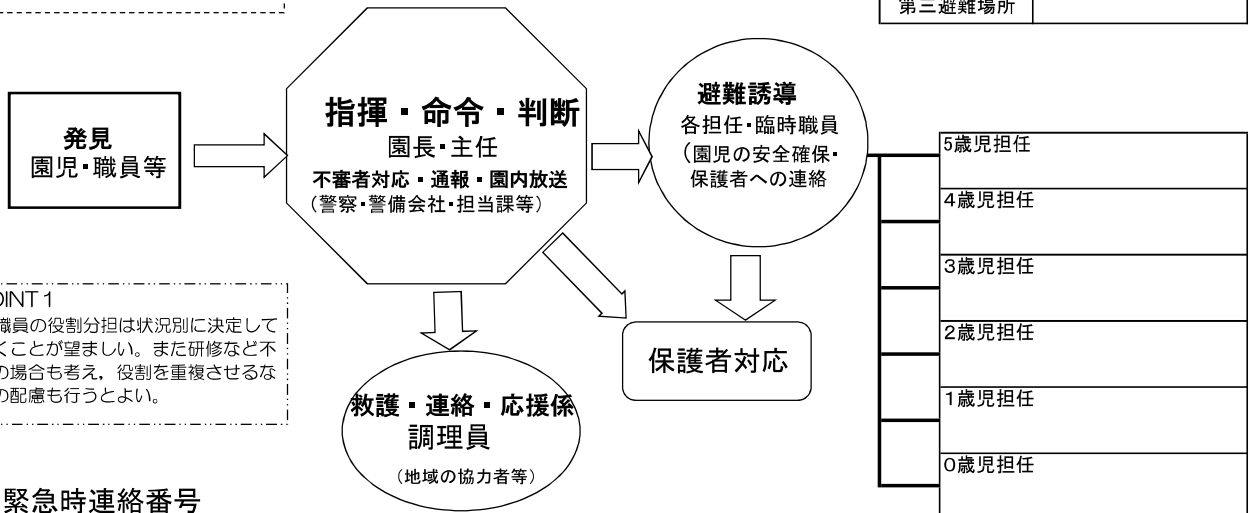
不審者対応役割分担表

想定される場面

職員の協力体制・役割確認

施設名:

避難場所	
第一避難場所	
第二避難場所	
第三避難場所	



POINT 1
職員の役割分担は状況別に決定しておくことが望ましい。また研修など不在の場合も考え、役割を重複させるなどの配慮も行うとよい。

緊急時連絡番号

警察	110番		
消防・救急	119番		
最寄の交番			
警備会社			
担当課(直通)			

POINT 2
不審者侵入の事実を迅速に周知する一方、不審者を刺激しないよう配慮する。園内放送等も事前に決めておいた暗号などを用いることが望ましい。
(例)「お知らせします。裏門で電気工事が始まります。皆さんは先生と一緒に、〇〇組に集まりましょう。」
*実際に工事のあることは事前に伝えているはず。工事の場所は不審者のいる場所を示す。

不審者対応防犯訓練用チェックリスト

年 月 日

施設名

		チェック項目	チェック
初期対応	1	発見者の侵入初期対応（侵入防止，退去等）できたか	
	2	不審者の子どもへの接近を防止できたか	
	3	子どもへの避難誘導等の指示はできたか	
	4	発見者から園長・主任への初期連絡はできたか	
	5	不審者の状況把握はできたか	
	6	負傷者の有無は把握できたか	
	7	負傷者の状況把握（出血，意識，呼吸等）確認できたか	
通報連絡	8	園長・主任への緊急連絡，状況報告はできたか	
	9	警察への緊急出動要請はできたか	
	10	消防署への救急車緊急出動要請はできたか	
	11	市役所，区役所，近隣学校，地域関係者への緊急連絡はできたか	
緊急事態対応防犯体制	12	緊急事態発生状況の把握はできたか	
	13	全職員への情報伝達はできたか	
	14	緊急事態対応防犯体制はとれたか	
	15	通報・連絡体制はとれたか	
	16	避難誘導等の指示はできたか	
	17	子どもへの注意喚起はできたか	
	18	情報の収集はできたか	
	19	情報の集約，経過に沿っての記録はできたか	
	20	二次被害の対策はとれたか	
	21	職員の緊急活動での役割は果たしていたか	
	22	報道機関への対応窓口は一本化できたか	
救急救護体制	23	負傷者の状況把握はできたか	
	24	負傷者の応急手当はできたか	
	25	救急活動に関する緊急連絡体制はとれたか	
	26	救急活動での状況報告，連絡体制はとれたか	
	27	園医への連絡，協力要請はできたか	
	28	負傷者に関する記録はできたか（氏名，搬送先等）	
	29	救急車への職員付き添い搬送はできたか	
	30	医療機関への付き添い者からの状況報告・記録はできたか	
連絡体制	31	市役所・区役所等への緊急連絡はできたか（初期・逐次報告）	
	32	保護者への連絡体制はとれたか	
	33	保護者への連絡はできたか	
	34	子どもの保護者への引き渡し体制はとれたか	
全体	35	安全管理に関するマニュアル等は機能したか	
	36	緊急対応方針は決定できたか	
	37	状況全体の記録はできたか	

* 訓練に応じ，不必要な項目は斜線を引いて使ってください。

不審者対策チェック表

年 月 日

施設名

	チェック項目	チェック	主な担当者
施設設備	不審者侵入を未然に防ぐための必要な対策を講じている		園長
	① 保育園の出入り口等の門以外に、不審者が侵入しやすい場所、潜みやすい場所はないか点検し、必要な対策を取っている		
	② 出入りの門や玄関等にはインターホン、オートロック等が整備されている		
	③ 来園者には必ず受付（職員室）を通るようにしてもらっている		
	④ 各保育室やホールなどに、不審者侵入を防ぐ内鍵がつけられている		
	⑤ 警備員や警察が駆けつけるシステムである小型通報装置を設置している		
組織・体制	不審者対応マニュアルは、保育園独自のものになっている		全職員
	① マニュアルには事前対策、緊急時対策、事後対策ができています		
	② 不審者侵入の想定を園児の活動内容や時間帯によって、または不審者の侵入場所など様々な場合を想定している。		
	③ 緊急時における職員の役割内容、分担が明確になっている		
	不審者侵入を未然に防ぐための職員の行動を確認している		
	① 職員が来園者に必ず挨拶や声かけをしている		
	② 意識的、組織的に園庭や園舎内の巡回をしている		
	③ 防犯ブザー、笛等を携帯している		
	④ 不審者から職員が身を守るための防護盾等の用具を備え確認している		
	不審者侵入防止に対する保護者・地域・関係機関との連携がとれている		
	① 不審者侵入防止のための保育園の体制を保護者・地域の人に周知し、理解を得るための依頼をしている		
	② 警察や消防などの関係機関との連携を強化し日頃から緊急時の対応を確認している		
	③ 多数の外部者が来園する行事等の場合に、職員が受付や園内巡回等実施している		
	保育園外での不審者に対する体制がとられている		
① 保育園周辺の安全確保のため、保護者・地域・警察等関係機関に協力を依頼している			
② 近隣に不審者の情報があった場合、園児の安全確保、保護者への連絡体制、登降園時の安全対策ができています			
③ 園外保育時は通行予定の経路や目的地における安全面での再点検を行うと共に緊急時における避難場所、連絡場所などマップを作成するなど対応している			
教育・訓練	職員会議で安全対策について、定期的に話し合いをしている		園長・主任
	① 緊急事態が発生した場合、職員が具体的にどのような行動をとるべきか、防犯訓練を実施している		
	② 不審者から自分の身を守るための防犯教室等を開催し、保護者と共に学ぶ機会を設けている		
	③ 子どもの発達段階に応じて危険に遭遇した場合の具体的な対応について指導している		
その他	① 子育て支援として園開放しているとき来園している未就園児親子に対して、不審者侵入防止のための保育園の体制を知らせ、理解を得るための機会を設けている		園長・主任
	② 開放部分と非開放部分を明確化し、安全管理の徹底をしている		

* 施設・設備欄の③については、施設により不可能のところもあるのでチェック欄に斜線を引いてください。
 * 各項目ごとに空欄を設けましたので、各園での取り組みを入れてください。

避難訓練年間指導計画

年間目標

<ねらい>

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

避難訓練年間指導計画

年間目標 ・災害の時、子どもの生命を第一とし、安全な場所に避難誘導する。

・訓練を繰り返し行い被害を最小限度にとどめる。

<ねらい>

◎ 生命の大切さを知る。

◎ いろいろな避難方法を知る。

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	避難訓練の話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練について知る。 ・非常時の合図を知る。 ・(お)(か)(し)(も)の約束を知る。(押さない・かけない・喋らない・戻らない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居・絵本等で避難訓練について知らせ、恐怖心を持たせないようにする。 ・避難訓練に対する基本的考え方や役割分担を周知しておく。 ・乳児クラスの避難についての協力体制を作っておく。 ・避難用具・非常食の確認をする。 ・保護者への避難場所や震度5弱以上時と避難準備情報発令時の迎いの周知をする。 ・園児引き渡しカード記載内容の確認をする。
5月	火事(近くの民家より出火)	<ul style="list-style-type: none"> ・速やかに集合し保育者の指示に従う。(遊戯室集合) ・消防署員の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常ベルが鳴っても、慌てず静かに指示を聞くようにする。 ・保育者の指示に従って、スムーズに避難できるように誘導する。 ・園舎を点検し、逃げ遅れた子どもがいなか確認をする。 ・保育者は通報訓練や消火器の使い方を知り、万が一に備える。
6月	地震(園庭に避難)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震時の避難方法を知る。 ・保育者の指示をよく聞き机の下等安全な所で揺れのおさまるのを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常口を開ける。 ・落下物等で怪我をしないように安全な所に身を寄せる。 ・恐怖心を持たせないよう揺れがおさまるまで動かないように話す。 ・保護者への連絡体制の確認をする。
7月	水害	<ul style="list-style-type: none"> ・水害・水の事故について知る。 ・紙芝居・話などで知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報に注意を払い、早めに安全な場所に避難をする。 ・地域との連携の確認をする。
8月	火事(食事中)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を途中で止め、保育者の指示に従い落ち着いて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急の時は食事を途中で止めさせる。 ・火災に対しては、煙の怖さを知らせる。
9月	地震	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な所で揺れの治まるのを待つ。 ・指示に従い迅速に行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出口での混乱に気をつける。 ・靴の履けない子には援助し、持って出してから履くなど工夫する。 ・非常階段やすべり台での避難は安全に留意しながら実施する。
10月	風水害(延長保育時)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな状況での避難の方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に避難場所を掲示しておく。 ・人数確認をする。 ・園外に避難する時は携帯電話・ラジオなどを持参する。 ・保護者への引き渡し方を周知する。(園児引き渡しカードの活用方法)
11月	想定外の災害 (園児引き渡し方法の確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな状況での避難の方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ避難場所や震度5弱以上時や避難準備情報発令時、想定外の自然災害時の迎いの協力を行う。 ・想定外の自然災害等について、施設長は、事象に応じてその都度適切な判断と対応を行なう。 ・園児引き渡しカードをコピーし、保護者への引き渡し方訓練を実施する。
12月	地震(自由遊び中)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任でなくとも近くにいる保育者の指示に従い安全な所に避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任にかかわらず近くにいる保育者の所に集まることを徹底する。
1月	火事(午睡中)	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡中における避難を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目覚めの悪い子や、掛布団等で子どもの姿が見えにくくなっていること等から、人数確認や避難方法の確認をする。
2月	地震	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所に避難する。 ・コートを着用し避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常口の除雪をし、避難路を確保する。 ・コートを手を持ちすぐに集合する。 ・雪で歩道が狭くなっているため、安全に留意して避難する。
3月	火事(近隣より出火)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動を身につけ、あわてず落ち着いて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな避難方法のあることがわかり、約束を守って速やかに行動する。

避難訓練実施記録簿

園長		主任		担当		実施 月日	年 月 日 天候() 時 分 ~ 時 分
参加人員		児童	名	職員	名	その他	名 計 名
災害想定		火災	地震	風水害	通報訓練	その他()	
ねらい							
消火訓練実施状況		消火器の確認	消火器の持ち出し	消火器の使用手順確認			
		実際に消火器を使用	その他()				
訓練当日の 状況想定							
[災害の具体的想定と 使用避難用具の明記]							
実施状況							
評価							
反省							
回覧 (印またはサイン)							

※消火訓練は、少なくとも毎月一回は実施する。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第6条)

※災害想定、消火訓練欄は実施個所を○で囲む。

※園舎見取り図を添付し、実際の避難経路を記入する。

(2) - 7 園児引き渡しカード

園児引き渡しカード				担任氏名	
園児氏名	(ふりがな)	性別		組	組 (歳)
	(年 月 日 生)				
住所	〒				
	電話 ()	-			
	変更	〒			
保護者名	(ふりがな)	園児との関係			
在園する 兄弟姉妹	組		組		組
	氏名		氏名		氏名
緊急時の 連絡先 優先順に	①氏名		続柄		電話 () 自宅・勤務先
	生年月日		携帯		
	②氏名		続柄		電話 () 自宅・勤務先
	生年月日		携帯		
	③氏名		続柄		電話 () 自宅・勤務先
	生年月日		携帯		
家族で確認している避難場所					

引き取り者	園児との関係 ()			引き渡した職員	
引き渡し時間	午前 午後	時	分	引き渡し日	
今後の避難場所	自宅・避難所 () ・その他 ()			特記事項	
今後の連絡先					

※個人情報の為、管理には十分留意する。

※太枠内は職員が記載

年度

援助計画（園児・保護者）

クラス

担任名

子どもの氏名		住所	区
生年月日	年 月 日生（ 歳）	入所年月日	年 月 日
家族構成及び家庭の状況			
続柄	年齢	健康状態	
協力体制	家庭内協力	有（ ）無	
	家庭外協力	有（ ）無	
《子どもの状況及び援助を必要とした動機》			
他機関からの 情報及び連携			
保 育 園 の 対 応 方 針			
園長			
主任			
担任			
《具体的な援助内容》			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者 ・ 子ども 			

* この援助計画は園児や保護者に援助が必要と思われる場合のみ記入する。

閲覧（印またはサイン）

記入者名

（ 年 月 日）

◆援助計画（様式及び記入のポイント）

年度

援助計画（園児・保護者）

クラス

担任名

子どもの氏名		住所	区
生年月日	年 月 日生（ 才）	入所年月日	年 月 日
家族構成及び家庭の状況			
続柄	年齢	健康状態	<p>○親子関係、家庭環境、保護者の様子、育児不安、悩み、思いなど収集した情報をもとに記入する。</p>
		○心身の健康状態について記入する。	
		○家族、親など家庭内や家庭外で協力できる人を記入する。	
協力体制	家庭内協力	有（	）無
	家庭外協力	有（	）無
《子どもの状況及び援助を必要とした動機》			
<p>○子どもの発達や行動の特徴、健康状態、生活リズム、生活習慣等記載。 ○記入に際して、職員間で十分話し合いを行なう。</p>			
他機関からの情報及び連携	○他の専門機関と連携がある場合、その機関名及びその内容について記入する。		
保 育 園 の 対 応 方 針			
園長	○担任だけでなく、保育園全体で組織として援助するにあたり、それぞれの役割を具体的に明記する。		
主任			
担任			
	○必要に応じて他の保育士や調理師、看護師の援助内容も記入する。		
《具体的な援助内容》			
・保護者	<p>○具体的な援助例を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちを受けとめる。 ・子どもの成長の喜びを共有する。 ・園行事等、個人的に言葉がけをして誘う。 ・分かりやすい子育てパンフレットを渡す。 		
・子ども			
○子どもの状況を把握したうえで、具体的な援助内容を記入する。			

*この援助計画は園児や保護者に援助が必要と思われる場合のみ記入する。

閲覧（印またはサイン）

記入者名

（ 年 月 日）

◆援助記録（様式）

年度

援助記録（園児・保護者）

子どもの名前： (クラス名) 才児 担任名 ()

年月日	子どもや保護者の様子	具体的な援助内容	対応者名

◆援助記録（様式及び記入のポイント）

年度

援助記録（園児・保護者）

子どもの名前：（クラス名）才児 担任名（）

年月日	子どもや保護者の様子	具体的な援助内容	対応者名
	<p data-bbox="328 551 1230 775">○必要に応じて園児と保護者に対して支援を行うとき、情報を共有しながら連携を図り、より良い支援に向けるため、担任のみでなく対応した職員が記載する。</p> <p data-bbox="328 913 1206 1115">○客観的事実と対応した事柄の要点をわかりやすく記載する。 ○個人情報保護に十分留意する。</p>		

～配慮の必要な家庭のポイント～

※保育者は不適切な養育を伺わせる様々なサインについて学び、それに気付くことが必要である。
 ※子どもや保護者の変化について早期発見し、保育士が共感しながら丁寧に関わることによって虐待の予防に繋げていくことが大切である。

【子どもの特徴と変化】		園長	主任	担任
身体や身なり・ 心の様子		顔や腕、足などにいくつもの傷やケガ・やけどの痕がある。		
		体重や身長伸びが悪いなど発育不良が見られる。		
		食べ物への執着が強い。年齢以上に執着して食べる。		
		季節にそぐわない服装をしていたり、衣服が破れたり汚れたりしている。		
		衣服を着替えるとき、異常な不安を見せる。		
		怖がる・怯える・急に態度を変える。		
		表情が乏しく、受け答えが少ない。		
		警戒心が強く音や振動に過剰に反応し、手を挙げただけで顔や頭をかばう。		
保護者との関り方		身体衛生が保たれていない。(お風呂に入っていない等)		
		保護者の前では硬くなり、極端に恐れている。		
		不自然に子どもが保護者に密着している。		
友だちとの関り方		保護者といると、おどおどし落ち着きがない。		
		威圧的・攻撃的で乱暴な言葉づかいをする。		
		落ち着きがなく、過度に乱暴だったり、弱い者に対して暴力をふるったりする。		
問題行動・その他		激しい癩癢を起こしたり噛みついたりするなど攻撃的である。		
		子ども同士でいるよりも大人にまわりつく方が多い。		
		小動物をいじめる。		
		年齢に不相応な性的な興味・関心をもっている。		

【保護者の特徴と変化】

子どもとの関り		子どもに対して、ことあるごとに激しく叱ったり、ののしったりする。
		子どもを抱いたり話しかけたりしない。
		子どもが病気でも病院に連れていかない。また予防接種を受けさせない。
保育園との関り		欠席の理由がはっきりしなかったり、連絡がなかったりする。
		ケガについての説明が不自然である。
		子どもに関して言っていることに一貫性がない。
		話し合いや面談を拒む。
保護者の変化		体罰や年齢不相応な教育などを「しつけ」「家庭の教育方針」と正当化する。
		服装の変化が見られる。
		保育時間を過ぎても連絡が取れない。
		忘れ物が多い。
		保育料・必要経費の滞納
		心身の不調が見られる。(うつ症状など)
地域での状況		育てにくさへの不安など子育てのストレスを抱えている。
		保護者同士や地域とのつながりが少ない。

(年 月 日 : 記入者)

年度 月 日

通告とする 通告としない 検討(調査後)

電話相談 → 家族環境その他 左記以外()

虐待相談・通告受付票

通告受理者 ()

受理年月日		年 月 日 () 午前・午後 時 分		
被虐待児童	①	男・女	年 月 日生 (歳) 未 / () 保・幼・小・中・高 年 出席状況(良好・欠席がち・不登校 ~)	
	②	男・女	年 月 日生 (歳) 未 / () 保・幼・小・中・高 年 出席状況(良好・欠席がち・不登校 ~)	
	住所	電話		
	現在の居場所			
保護者	ふりがな氏名 続柄 生年月日	(実・養・継)父・他 年 月 日 (歳)	職	生活保護 有・無
		(実・養・継)母・他 年 月 日 (歳)	業	
虐待の種類及び内容		<input type="checkbox"/> 情報源 (目撃・音等から推測・関係者からの情報(下記通告経路参照)) <input type="checkbox"/> 虐待の種別 (身体的・性的・ネグレクト・心理的) ←主◎従○ <input type="checkbox"/> 主な虐待者 () <input type="checkbox"/> いつ頃から () <input type="checkbox"/> 頻度は (ほぼ毎日・3日に1回程度・週1回・月1回・他) <input type="checkbox"/> 具体的な内容		
家庭の状況		家族構成	家族内の協力者 家族以外の協力者 近隣の風評等	
保護者の了解		保護者はこの通告を (承知・拒否・知らない)		
通告者	ふりがな氏名	関係	福祉事務所(県・市)・市町村保健C 県他・市町村他・児童委員・警察 保育所・幼稚園・学校・教委・保健所 医療・家族(虐待者本人・それ以外) 親戚・近隣知人・児童本人	
	住所	電話		
	通告経路	() → () → () → () → 当区		
	通告意図	子どもの保護 ・ 調査 ・ 相談 ・ 情報提供		
	調査協力	調査協力 (諾 ・ 否) 当所からの連絡 (諾 ・ 否)		
通告者への対応		①区で実態把握する ②その他 ()		

※ 通告受理者は上部太枠内を記入する。原本は「虐待通告票綴」へ

支援計画作成のためのアセスメント	<input type="checkbox"/> 精神(診断有・無) <input type="checkbox"/> 疾病(身体) <input type="checkbox"/> 発達障がい
	<input type="checkbox"/> 知的・身体・精神障がい(手帳有・疑い) <input type="checkbox"/> ステップファミリー <input type="checkbox"/> 離婚
	<input type="checkbox"/> ひとり親 <input type="checkbox"/> 養育力 <input type="checkbox"/> しつけ <input type="checkbox"/> 妊娠・出産 <input type="checkbox"/> 中絶 <input type="checkbox"/> DV <input type="checkbox"/> 虐待
	<input type="checkbox"/> 生保 <input type="checkbox"/> 経済的困窮 <input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 社会的孤立(ニート・ひきこもり等) <input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不登校・登校しぶり <input type="checkbox"/> いじめ <input type="checkbox"/> 非行 <input type="checkbox"/> 中卒・高校中退 <input type="checkbox"/> 生活習慣
	<input type="checkbox"/> 家族関係 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 外国籍 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> その他 ()

自己啓発活動表(SDS)記載例 ～その1～

スキルアップのための計画・実行・評価・改善(PDCA)

所属	職種	経験年数	年	氏名		
	(担当)					
課題					(計画への助言)	
今年度の目標						
計画						
	記入日(年 月 日)				確認印	
					園長	主任
実行						
自己評価(ふり返り)	記入日(年 月 日)					
取組みへの助言						
					確認印	
					園長	主任

自己啓発活動表(SDS)記載例 ～その1～

スキルアップのための計画・実行・評価・改善(PDCA)

所属	〇〇保育園	職種 (担当)	保育士 4歳児担任	経験年数	7年	氏名		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションをとることが苦手で、誤解を招いてしまうことがあった。 ・身体を動かすことが苦手なので、子どもとの遊びが静的なものに偏ってしまいもっと身体を動かして子どもたちと遊べるようにしたい。 						(計画への助言) 研修会に参加して学び、それを実践することで、自身が苦手とすることを克服しようとしているのですね。良い目標と計画だと思います。がんばって下さい。	
今年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が愚痴や悩みをこぼせるような信頼関係を作る。 ・子どもたちが喜びそうな鬼ごっこをたくさん覚え、子どもたちと一緒に身体を動かして遊ぶことを楽しむ。 							
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで挨拶をしたり、明るい笑顔で接したりし、保護者から親しみを持ってもらえるような関係作りをする。 ・傾聴スキル研修会に年4回参加し、相手の話をさえぎることなく最後まで聴く技術を学ぶ。学んだことを実践していき保護者との信頼関係を築いていく。 ・年齢別部会に参加し、他園で楽しんでいる鬼ごっこを5種類以上教えてもらう。わずかな時間でも毎日鬼ごっこタイムを設け、楽しみながら身体を動かす。 						確認印	
	記入日(年 月 日)						園長	主任
実行	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の方から先に挨拶をし、親しみやすい雰囲気を作った。 ・傾聴スキル研修会に4回参加した。自分の意見を先に言わないよう心掛け、保護者の話を最後まで聴くようにした。 ・年齢別部会で6種類の鬼ごっこを教えてもらった。できなかった日もあるが、ほぼ毎日わずかな時間でも鬼ごっこをして遊ぶことができた。 							
自己評価(ふり返り)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から明るく挨拶をしていくことで保護者との距離が縮まっていったように感じられる。保護者から子育てのことだけではなく、仕事のことや自身の悩みが会話の中に出てくるようになった。自分が伝えることばかり考えていたが、保護者の話を最後まで丁寧に聴くことで良いコミュニケーションがとれているということを学ぶことが出来た。これからも保護者との信頼関係作りに努めていきたい。 ・身体を動かすことが苦手だったが、子どもたちと鬼ごっこを楽しむという目標を持つことでチャレンジしようという意欲が湧いてきた。毎日のようにやっていると子どもたちが自分たちで新しいルールを作って別の楽しみ方をするようになり、自分自身も本当に楽しかった。 							
取組みへの助言	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで保護者に声を掛けていたことで、保護者も話しやすかったと思います。相手の話を共感しながら最後まで聴くのは大変なことですがとても大切なことです。これからも傾聴を心掛け保護者との信頼関係作りに役立ててください。 ・クラスのみんなで毎日楽しそうに鬼ごっこをしていましたね。子どもたちの表情が生き生きとしていました。ケンカが多かったクラスなのに気が付けば友だち同士で協力しあう姿が沢山見られるようになりました。これも、鬼ごっこを通してルールを守りながら楽しく遊ぶ体験を沢山したからなのでしょうね。 							
							確認印	園長

研修報告（実践ノート）	検 印		記 録 者
			⑩
研修名			
・ 研 修 内 容		・ クラスの様子	
		・ 実 践 内 容	

・実践経過	・結果・改善点
	<p data-bbox="791 1216 1066 1249">【園長、主任等の助言】</p>
・自己評価	

研修報告（実践ノート）	確認印		記録者
			⑩
<p>研修名 新潟県障がい児保育研修会</p>			
<p>・ 研 修 内 容</p>	<p>・ クラスの様子</p>		
<p>「子どもの特性を踏まえた保育支援」という講義中での一部</p> <p>・保育指導で難しさを感じる子ども達 ↓ 情緒不安定な子ども達の保育子ども達との関わりの中で、</p> <p>* おこりんぼさんが友達とトラブルになった時の対応 ↓</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">気持ちの整理</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="width: 20px; height: 100px; background-color: #4a86e8; margin-right: 10px;"></div> <div style="text-align: left;"> <p>5 とても強い</p> <p>4 強い</p> <p>3 普通</p> <p>2 弱い</p> <p>1 とても弱い</p> </div> </div> <p>「気持ちの温度計」で怒っている気持ちを測ると何度？などと聞いて深呼吸させて気持ちを整えるという対処法があった。</p>	<p>・クラスの中で気になっていた事 ↓ 保育室の中で大きな声を出して近くの友だちと話す子がいる ↓ すると他の子も聞こえるようにと更に大きな声で話始める ↓ 「静かにしようね」「声が大きいね」などの声掛けで促すしかなかった。</p>		
	<p>・ 実 践 内 容</p>		
	<p>・研修で学んだ「気持ちの温度計」を応用し、「声の温度計」を作り、クラスの子どもたちに知ってもらおう。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="width: 20px; height: 100px; background-color: #4a86e8; margin-right: 10px;"></div> <div style="text-align: left;"> <p>5 とても大きな声</p> <p>4 大きな声</p> <p>3 グループの友だちに聞こえる声</p> <p>2 小さな声(隣の友だちに聞こえる声)</p> <p>1 とても小さな声(耳元で囁くような声)</p> </div> </div> <p>・1～5の声の大きさを実際に出して見て聞かせる。</p> <p>・保育室の中で友だちと話すときは2か3の声だよね、という話をする。</p>		

<p>・実践経過</p>	<p>・結果・改善点</p>
<p>・部屋に「声の温度計」の表を張り、話をすることだけでなく、目で見て確認できるようにする。</p>  <p>・時間がたつとだんだん声が大きくなる子がでてきたが、表に気付いた子が、「声が大きいわ、3の声だよ！」と声をかける姿が見られるようになった。</p> <p>・日を追うごとに、クラスの子どもたちの間で随分「声の温度計」が浸透してきたように思う。</p>	<p>・大きな声を不快に感じる子がクラスにいる為、自分たちで少し意識して声の大きさに気付けるようになってきて良い方向に向かっていると思う。</p> <p>・友だちの声の大きさに気付くようになってきたので、自分の声にも注意を払うことができるよう引き続き実践していきたいと思う。</p> <p>・継続することで更にクラスに浸透していくと思うので、引き続き実践していきたい。</p> <p>【園長、主任等の助言】</p> <p>話をすることだけでなく、視覚で示すことは支援の必要な子だけでなくクラス全員に有効ですね。他のクラスにも活用できそうです。引き続き実践していき更にクラスに浸透していくと良いですね。</p>
<p>・自己評価</p>	
<p>・研修での内容を自分のクラスの気になっていた事象に応用することができてよかった。視覚に訴えることでより分かりやすく子ども達も意識しやすくなったように思う。今後も研修で学んだことを実践し、日々の保育に生かしていけたらと思う。</p>	

平成29年度 「保育の計画」作成の手引き 公私立保育園検討委員名簿

(敬称 略)

保育所 保育指針	園長	主任保育士	指導保育士	保育課
第1章	関屋 佐々木 亜紀子 第二曾野木 小野 かおる 中野山 久住 久美子	新通 安部 裕子	北区 煤賀 順子 中央区 長井 啓子	指導グループ 長谷川 陽子
第2章	にいつ愛慈 八幡 恵美子 翠松 猪俣 清子 坂井輪 平澤 朋子 矢代田 鈴木 裕美子	網川原 鈴木 和子 新潟 小林 世津子 ことぶき 片山 久美 あじほ 伊集院 瑞穂	江南区 青山 佳代子 南区 吉原 由利子 秋葉区 団原 伸子	
第3章		大野 奥住 まゆみ	西区 赤塚 裕子	保健・給食グループ 遠藤 牧枝 関崎 久美子 石橋 敦子 斎藤 麻里
第4章	ほのぼの 坂井 和子	松崎 服部 麻理 すわ 近藤 由美子	西蒲区 小泉 真由美	
第5章	瑞穂 桑野 量子 二葉 牧野 美千代	赤沢 小林 恵 沼垂 伊藤 史子	東区 渡辺 久子	
全体取りまとめ				
		保育課 指導保育士	瀬野 明子	
		保育課 指導保育士	栗川 清美	
指導・助言				
		新潟県立大学 教授	斎藤 裕 氏	
		新潟県立大学 准教授	小池 由佳 氏	

2018年2月 初版
2019年1月 第二版